

本時のねらい

- ・単元のゴールである「オリジナルタウンガイド」完成に向けた「オリジナルショップガイド」を作成する。
- ・過去形やフリーズ表現を用いながら自分の作った英文が実際に使用する表現として正しいのかについて検証する力を育む。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・生徒が、文法的に違和感のある英文と表現したい意図を、生成 AI を使用して修正させ、実際の表現として適切なのかを検証する。
- ・生成 AI の利便性を確認し、ALT とともに AI から出力された情報が正しいのかを検証する。
- ・AI を使うことにより、英語が苦手な生徒にも主体的に取り組ませることをねらいとする。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・プロジェクター ・ Microsoft PowerPoint ・ 翻訳サイト ・ 生成 AI

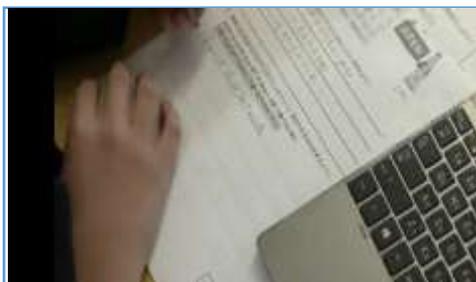
本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お気に入りのショップガイドを完成させよう！</div> <ul style="list-style-type: none"> ○学習計画表を記入する。 ○NEW WORDS の練習をする。 <p style="text-align: right;">【写真 1】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○PowerPoint を使い、本時の内容を提示することで、生徒の理解を促進する。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○教員が作成した「オリジナルショップガイド」を確認する。 ➡どうすれば相手に伝わりやすくなるかを考える。 ○「オリジナルショップガイド」を作成する。 ➡教員のモデルで確認したポイントを基に作成する。 ① 日本語で「オリジナルショップガイド」を作成する。 ② そのスポットについての紹介文を英語で作成し、内容の確認や、必要に応じた生成 AI の活用を行う。【写真 2】 ○魅力的なショップガイドの紹介ができるように仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に生成 AI を活用する場合の利点と留意点について理解させる。 ○援助要請の設定を行い、主体的に学べるよう配慮する。 ・ALT または JTE ・教科書 ・生成 AI ・インターネット ・翻訳サイト ・他者参照等
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○「オリジナルショップガイド」の作成を通して、学んだことや気づいたことの振り返りを行う。 ・学習計画表の記入 <p style="text-align: right;">【写真 3】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生成 AI を活用する上での注意点やリテラシーについて再度確認をさせる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】 学習計画表に記入している様子



【写真 2】 生成 AI を利用して英作文を考えている様子



【写真 3】 学習計画表《本時の振り返り》

児童生徒の反応や変容

- ・生成 AI を使用することで、「こう言いたい場合はどう言ったらいいの？これで合ってるのかな？」などと英語が苦手な生徒も積極的に取り組む姿が見られた。また、ALT に文章の評価をもらうために、英語を伝えようと頑張る生徒の姿が印象的だった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・生成 AI の活用は便利であるものの、中学生が自分で英文を作成することができなくなってしまう恐れがある。そのため生成 AI の使用においては、生成された英文が正しい文章なのか、意図のずれはないのかを確認する必要がある。そういった点をおさえて使用することが、英語の応用力を高めてくれることを生徒に伝えていきたい。今回の授業では生徒が普段に比べて、より多くの表現を使いながら英語を「伝えよう」とする姿が見られた。